

平成29年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	国際水協会・水供給に関する運用と管理ネットワーク拠出金			担当部局庁	生活衛生・食品安全部	作成責任者	
事業開始年度	平成18年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	水道課	水道課長 宮崎 正信	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する計画、 通知等	-		
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	途上国における水供給システムの運用及び管理に対する意識の向上と、知識や技術の移転を目的として設立された水供給に関する運用と管理ネットワーク(Operation & Maintenance Network : OMN)の活動を支援することにより、我が国の水道事業者が有する水道の運用及び管理に対する高い技術力と豊富な経験等を途上国と共有することが可能となり、国際貢献に資する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	WHOの協力を得て、IWAが運営するOMNは、国際的な水供給に関する目標達成に大きく貢献するものであり、我が国の知見や経験を有効に活用できる分野における取り組みを進めている。 我が国がOMNを支援していくことは、国際的に強く求められるものであることから、OMNの活動を支援するための資金を拠出するもの。						
実施方法	その他						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	12	12	12	6	
		補正予算	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し	-	-	-		
		予備費等	-	-	-		
	計	12	12	12	6	0	
	執行額	12	12	12			
執行率 (%)	100%	100%	100%				
当初予算+補正予算に対する 執行額の割合 (%)	100%	100%	100%				
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由			
	経済協力開発機構等拠出 金	6					
	計	6	0				

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	成果実績 目 標 値 達 成 度	単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 毎 年度	
	国連ミレニアム開発目標 「2015年までに安全な飲料 水及び基礎的な衛生施設 を継続的に利用できない 人々の割合を1990年より半 減」	達成度 = 1 - (成果実績 - 目標値) / (目標値) (目標値:12% 1990年の 割合(24%)の半分)			%	11	11	11	-	-
			%	12	12	12	-	12		
			%	108	108	108	-	-		
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部水道課調べ									
定量的な成果目標の 設定が困難な場合	代替目標	代替指標	実績 目 標 値 達 成 度	単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
		国際機関(IWA)の日本人 職員数(参考指標)		人	0	0	0			
				%						
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	研修ツールの作成			活動実績	件	2	2	集計中	-	
				当初見込み	件	2	2	1		
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	ワークショップ等の開催			活動実績	回	5	3	集計中	-	
				当初見込み	回	5	3	1		
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	WHOへの専門家の派遣			活動実績	名	1	1	集計中	-	
				当初見込み	名	1	1	1		
単位当たり コスト	算出根拠			単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	単位当たりコスト=X/Y X:「活動支援額」 Y:「OMN活動」			単位当たり コスト	百万円/件	12	12	12	6	
				計算式	X/Y	12/1	12/1	12/1	6/1	
政策評価、経済・ 財政再生アクション・ プログラムとの関係	政策	XI-1 国際社会への参画・貢献を行うこと								
	施策	XI-1-1 国際機関の活動への参画・協力等を通じて、保健・労働等分野において国際社会に貢献すること								
	測定指標	定量的指標			単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
					実績値	-	-	-	-	-
					目標値	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	WHOの協力を得て、国際水協会(International Water Association: IWA)が運営する水供給に関する運用と管理ネットワーク(Operation & Maintenance Network: OMN)は、国際的な水供給に関する目標達成に大きく貢献するものであり、我が国の知見や経験を有効に活用できる分野における取り組みを進めている。我が国がOMNを支援していくことは、国際的に強く求められるものであることから、OMNの活動を支援するための資金を拠出する。途上国における水供給システムの運用及び管理に対する意識の向上と、知識や技術の移転を目的として設立されたOMNの活動を支援することにより、我が国の水道事業者が有する水道の運用及び管理に対する高い技術力と豊富な経験等を途上国と共有することに寄与し、国際社会へ貢献する。									
	改革項目 (第一階層)	分野:	-							
		KPI (第一階層)			単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
					成果実績	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-		
			達成度	%	-	-	-	-		
			達成度	%	-	-	-	-		
改革項目 (第二階層)	KPI (第二階層)			単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
				成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										
-										

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明			
国 必 費 投 入 の 性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	OMNの活動分野は、我が国の水道が有する高い技術や知見の活用が有効な分野であり、広く国民のニーズが高く、			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国際分担金であるため、国が実施すべき事業である。			
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	国際社会において、日本には水分野の国際貢献が強く求められており、優先度の高い事業である。			
事 業 の 効 率 性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-				
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	-			
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	-			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業を実施することで安全で質の高い水道が受益者に提供されることから、負担関係は妥当である。			
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	適正な執行を行い、単位当たりコスト削減に今後も努めることとする。			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	使途を十分に把握できており、事業目的に真に必要なものに限定されている。			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-			
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-				
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	成果が期待できる国を選定し、調査実施している。				
事 業 の 有 効 性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果実績は成果目標に見合ったものとなっている。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	事業の性質から数値で定量的に成果目標を示すことは出来ないが、活動実績は見込みに見合ったものとなっている。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	-			
関 連 事 業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-			
	所管府省名	事業番号	事業名			
点 検 ・ 改 善 結 果	点検結果	「水供給に関する運用と管理のネットワーク」(OMN)の活動分野は、漏水対策等に関する我が国の水道が有する高い技術や知見の活用が有効な分野の一つである。OMNの実施主体のIWAとWHOは、水道事業や水質管理に関係する代表的な国際機関であり、このような機関に対し資金拠出を行うことで、国際社会に大きな影響力を有するガイドライン等の作成への関与が可能となる、海外の関係情報の収集が容易になる、などのメリットがあり、引き続き必要な予算である。				
	改善の方向性	適切に予算を執行し、事業の目標が達成できており、このまま継続して事業を実施する。				
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	557	平成23年度	507	平成24年度	449	
平成25年度	839	平成26年度	841	平成27年度	851	
平成28年度	822					

